

開催期間:

2012年4月1日から2012年10月6日まで

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

24Members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

横浜市水道局他11団体

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

7000 US dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

横浜住み暮らす人々 約 369 万人

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

目的:

JCI横浜は市民が Community Development へ関心を高めるのを目的とした。
JCI横浜は市民が Community Development の価値を確認する機会を提供した。
JCI横浜は Community Development へ自発的に取り組む人材育成する機会を提供した。

3行程度 400字以内

【背景】

- ・市の市民意識調査において、Community Development の要望は63.7%。
（平成12年度横浜市民意識調査 より）
- ・その要望は男性50代に比べ女性20代・男性30代は大きいです。
- ・市の市民意識調査から Community Development への要望が高いことが分かりました。
- ・JCI横浜は市民の Community Development に対する要望の高さに危機感を持ちました。
自発的に Community Development に取り組む市民育成を目的と致します。

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

概要:

- ・JCI横浜は、「地域教育」・「地域魅力発掘」・「芸術」・「水資源」の四つをテーマの学ぶ場を市民に提供した。
- ・JCI横浜は、市民を総計2050人集め四つのテーマを調査・研究した。
- ・参加した市民は調査・研究することで、
そのテーマに関する住んでいるまちの問題を発見した。
- ・彼らは発見した問題に対して、専門家のアドバイスの元、解決方法見つけ実行した。
- ・JCI横浜は Community Development へ自発的に取り組む人材育成する機会を提供した。

結果:

- ・事業終了後、参加者1050人に対してアンケートを実施した。
- ・アンケートの結果、約800人から Community Development へ自発的に取り組むと回答を得た。
- ・事業毎におけるリピーター率は15%でした。参加者の Community Development へ関心度が判明した。

- ・参加者 総計2050人
- ・専用ホームページへのアクセス数 365,759アクセス(2012年4月1日から2012年10月6日まで)

- ・JCI横浜は、事業を通じて2050人の Community Development へ関心ある市民を育成することが出来た。
- ・事業開催後、当事業をきっかけに「水資源」のテーマとした官民共催事業が企画されました。
- ・事業参加者総数2050人で予想参加人数の1000人を上回りました。

行動:

2011年.9月20日

・市民および関連団体との会議

2011年.10月31日

・市民大学設立草案書作成

2011.年11月1日

・市民および関連団体との会議

2012年4月1日

・市民大学設立およびイベント開催

2012年6月10日

第1回目事業の委員会設立

2012年6月13日

第2回目事業の委員会設立

2012年6月13日

第3回目事業の委員会設立

2012年6月26日

第4回目事業の委員会設立

2012年7月15日と8月4日

第1回目事業開催。テーマ「地域教育」

2012年9月16日

第2回目事業開催。テーマ「芸術」

2012年9月29日

第3回目事業開催。テーマ「地域魅力発見」

2012年9月29日

第4回目事業開催。テーマ「水資源」

2012年10月20日

事後検証報告書の配布。

考察や推奨

・JCI横浜は事業終了後、参加者1000人に対しヒアリング・アンケートを実施した。

主な回答は

- 1、次回開催の要望。
- 2、事業から波及した勉強会への指導。
- 3、交流を目的としたWEBサイト設立への協力。

でした。

検証の結果、JCI横浜に対し、本事業の目的を広く発信していく為の継続開催を求める意見が中心という結果になりました。

- ・参加頂いた行政・団体・市民の交流が促進された。
- ・参加頂いた行政・団体・市民の間で相乗効果が生まれた。

【要因】

・事業終了後に交流会を開催し、促進を図った為。

・事業開催時に

- 1、参加者のモチベーションのUP。
 - 2、事業発信の推進力。
- を気をつけた為。

・参加頂いた行政・団体・市民間の交流から、新しい事業が開催された点。

【要因】

- ・事業終了後に交流会を開催し、促進を図った為。
- ・機会を作ったJCI横浜が後援団体に入った為。

- ・当事業の特色は参加者が実践していくこと。
- ・リピーター・新規参加者を加え大きくなっていくこと。
- ・参加者名簿を作成し、メール等で情報共有をし、参加者に事業を構築していくこと。
- ・JCI横浜は参加者が Community Development へ自発的に取り組む行動をサポートする。
- ・JCI横浜は行政・団体・市民と連携しながら運動を推進していく。

(コメント)・小学校 校長先生より

- ・子どもたちにも参加出来る四つテーマで事業は開催された。
当事業において、地域問題を学べた。また地域住民と交流を促進できた。
この目的を共有し、運動範囲を拡大していただきたい。
事業の継続をお願い致します。

【テレビ】

・神奈川テレビ（地元テレビ局 視聴世帯 約565万）放映1回

【新聞】

・読売新聞（全国紙 発行部数 約547万部）掲載2回

・神奈川新聞（地元紙 発行部数約23万部）掲載2回

【ホームページ】

横浜市（2012年4月1日から現在）

JCI YOKOHAMA（2012年4月1日から現在）